

Japanese Academy of P rosthetists and O rthotists

Passion

特集
第7期 新体制始動
新会長 東江由起夫 挨拶と所信表明

会報誌
JAPO通信

Vol. 11

新会長 挨拶と所信表明

2023年7月16日、第29回日本義肢装具士協会学術大会（仙台市）の折に開催されました令和5年度第1回理事会において、任期2023年7月～2025年7月の第7期会長に選任されました新潟医療福祉大学リハビリテーション学部義肢装具自立支援学科の東江由起夫です。野坂利也前会長の後を引き継ぎ、当協会の発展のために一生懸命頑張りますのでよろしくお願いいたします。

副会長には石原栄治氏（重任：有限会社大阪義肢）、根岸和諭氏（重任：福岡義肢製作所）、後藤直生氏（新任：国立療養所多磨全生園）の3名が選任されました。また、常任理事には中村喜彦氏（重任：国立障害者リハビリテーションセンター学院）、藤本陽亮氏（重任：有限会社藤本義肢製作所）、笹川友彦氏（新任：熊本総合医療リハビリテーション学院）の3名が選任されその任務にあたります。監事には小谷和男氏（重任：株式会社小谷義肢）、佐々木智也氏（重任：株式会社佐々木義肢製作所）、森恭一氏（新任：有限会社北信義肢）の3名が就任し当協会を監査していただきます。

当協会は現在、16委員会及び14 ワーキンググループ、また全国を6ブロックに区分けした支部（支部長及び支部事務局長が活動を統括）がその活動にあたり、これらの活動を担当理事が集約し、理事会に報告する仕組みを取っています。また各部署の活動は黒澤仁一事務局長（本部）をはじめ、酒井達夫氏、遠藤和代氏、谷合眞美氏の4名の事務局長が支えています。

第7期はこうした面々が丸となり、様々な課題解決に取り組み、会員一人ひとりの資質の向上を図り、患者様の治療及び障害者様のリハビリテーションを推進し、公益社団法人としての役割を果たせるよう努めて参りたいと思いますので、会員の皆様には、より一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。



第7期 役員 任期：2023.7～2025.7		
役職	氏名	所属
会長	東江由起夫	新潟医療福祉大学
副会長	石原栄治	有限会社 大阪義肢
副会長	後藤直生	国立療養所多磨全生園
副会長	根岸和諭	福岡義肢製作所
常任理事	笹川友彦	熊本総合医療リハビリテーション学院
常任理事	藤本陽亮	有限会社 藤本義肢製作所
常任理事	中村喜彦	国立障害者リハビリテーションセンター学院
理事	芥川雅也	専門学校 日本聴能言語福祉学院
理事	植松茂也	有限会社 山形義肢研究所
理事	大西忠輔	城西国際大学
理事	鎌田恭子	神戸医療福祉専門学校 三田校
理事	昆 恵介	北海道科学大学
理事	徳田和彦	株式会社 徳田義肢製作所
理事	保谷純一	(公財) 鉄道弘済会 義肢装具サポートセンター
理事	本田智裕	熊本総合医療リハビリテーション学院
監事	小谷和男	株式会社 小谷義肢
監事	佐々木智也	株式会社 佐々木製作所
監事	森 恭一	有限会社 北信義肢

野坂前会長体制（第5期・第6期）の功績に感謝

野坂利也前会長には、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策で社会活動が制限される中、第5期（2019.7～）と第6期（2021.7～）の2期4年にわたり、当協会の発展のためにご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。在任中、以下の功績を残されました。

- ◆義肢装具士の臨床・研究業務及び研修会等における賠償責任保険に会員が全員加入
- ◆義肢装具士のコロナワクチン優先接種要望書提出（厚生労働省 医政局医事課）
- ◆医師のタスク・シフト/シェアに伴うフットケア足病研修会の開催
- ◆令和6年度実施・義肢装具士養成カリキュラムの要望書提出（厚生労働省 医政局医事課）
- ◆更生相談所判定業務における義肢装具士の役割の重要性を提示（厚生労働省 社会・援護局）
- ◆厚生労働省の社会保障審議会・下部組織「既製品装具のリスト収載検討WG」における治療用装具の価格設定に参画
- ◆義肢装具士の生涯学習プログラムの構築
- ◆義肢装具士の専門性強化のための専門義肢装具士制度準備委員会の設置
- ◆POアカデミージャーナルの電子化及び義肢装具士求人情報のホームページへの掲載
- ◆テクノエイド協会発行の福祉用具シリーズVol.27「義肢装具使用者の生活を支援するために」の作成

委員会委員長

- ◆日本リハビリテーション医学会学術集会におけるPO協会会長としての座長、特別講演

また、通常業務の中、急を要する案件に対し、迅速に対応するために北海道～東京間の頻回な往復はかなりの心労だったとお察しします。

石原栄治副会長、根岸和諭副会長、ならびに大塚博前副会長におかれましても日々の業務の中、頻回な会長・副会長会議の開催や、休日返上の会議は大変なご苦勞だったと思います。日本義肢装具士協会を代表して、この紙面をお借りして改めて御礼申し上げます。引き続き協会の発展のためにお力添えをお願いいたします。

特に大塚前副会長におかれましては、2001年4月に事務局長に就任、2003年4月から理事として常任理事、副会長を歴任し、長きにわたり当協会の運営ならびに活動を支えていただき感謝申し上げます。2012年、当協会が任意団体から法人化を目指した際には新定款作成、解散及び登記など会内外の手続きを担当されました。公益社団法人化を目指した2017年には、内閣府との折衝を務め、本協会の運営基盤を作られました。

野坂前会長ならびに大塚前副会長におかれましては、引き続き、顧問として新体制を支えていただきます。

第7期 新体制が取り組む重点課題について

さて、現在、当協会は公益社団法人として、様々な活動に取り組んでいます。第7期会長としては、会員にとって有益かつ魅力ある協会を目標に、野坂前会長が取り組んできた現在進行形の活動に加え、現在、協会が抱えている以下の重点課題項目の解決に向けて、全精力をあげて取り組んでいく所存です。

今回は紙面の都合上、項目と概要のみを記載し詳細についてはホームページの会員専用ページのトップページ「更新情報」の「2024.01.23 第7期 新会長所信表明（協会の課題解決に向けて）」をクリックし、一読されますようお願いいたします。

以上、就任に際しての挨拶と所信表明を述べさせていただきました。会員の皆様には是非ご理解をいただき、当協会の未来と発展のために、お力をお貸しいただきますよう切にお願い申し上げます。

重点課題10項目

1. 補装具費支給基準（制度）改正

- 1) ウクライナ情勢を背景とした材料費・運搬費等物価高騰における補装具費支給基準の改正
- 2) 厚生労働省「補装具費支給基準告示改正に向けた書面ヒアリング（7月～8月実施）」に向けた調査とエビデンス収集
- 3) 厚生労働科学研究費助成金（厚生科研）における補装具費支給基準の改正に向けた研究調査等への

積極的な協力

- 4) 義肢装具に関わる厚生労働省からの通知等の会員への情報提供の強化
 - 5) 補装具費支給基準に係わる講習会等の開催
 - 6) 補装具費支給基準における義肢装具士の資格対価の組み込み
 - 7) 更生相談所への義肢装具士の配置
- （次のページに続く）

2. 3D技術導入

近年、普及してきている3D技術（3Dスキャナを用いた3D CAD/CAM等システム）による義肢装具製作の補装具費支給基準への導入

3. 生涯学習の推進

令和4年からスタートとした新人プログラム（資格取得後5年未満の義肢装具士を対象）と、終了後に開催される一般プログラム臨床基礎コースならび研究基礎コースの推進

4. 義肢装具士専門コースの推進

令和2年に専門義肢装具士制度準備委員会（現・義肢装具士専門コース）に設置したフットケア/足病WG、大腿義足WG、脳卒中下肢装具WG、車椅子シーティングWGの研修会の推進

5. 義肢装具士養成教育の推進と臨床実習指導者育成

令和6年度実施・新カリキュラム（①デジタル技術科目の設置、デジタル機器の設備含む）、②形成外科学・皮膚科学の設置、③臨床実習科目の単位増等の改正）周知理解と、義肢装具士又は福祉用具専門分野の臨床実習指導者の育成

6. 義肢装具士の離職防止対策と就労継続支援

義肢装具士の離職を防ぎ、継続的に就労できる環境対策および増加傾向にある女性義肢装具士の永続的な就労環境作り対策

7. 義肢装具士なり手の学生募集の強化

少子化における義肢装具士養成校の学生獲得に向けた啓もう等を日本義肢装具教育者連絡協議会ならびに日本義肢協会などの関連団体と連携を図り協働して推進

8. 会員数増への取り組み

会員増（組織率強化）による協会課題解決の要望書の提出ならびに予算確保による会員の資質向上のためのジャーナル誌および研修会、生涯学習等の充実化

9. 委員等の負担軽減と人材発掘

理事・委員長・WG長の業務負担軽減し、若手委員の発掘・育成・役割継承を全国的ネットワークで展開する人員配置による協会組織の構築

10. 更生相談所への義肢装具士の配置

義肢装具士を更生相談所に配置した補装具費支給制度の展開

The screenshot shows the JAPO website interface. At the top right, there is a navigation bar with a search icon, 'POジャーナル', and a button labeled '会員専用' (Member Only) circled in orange with an arrow and the number 1. Below this, the main header features the JAPO logo and the text '会報誌 JAPO通信'. The main content area is divided into sections for '一般の方へ' (For the general public) and '義肢装具士の方へ' (For prosthetists and orthotists). On the right side, there is a '会員専用' (Member Only) section with a list of updates. The first update, dated 2023.05.02, is titled 'JAPO委員会 委員の専任' and is circled in orange with an arrow and the number 2. Other updates include '2023.05.12 2023年度会報誌（一）編集動向と今後の方針' and '2023.03.08 第7期 役員候補者選挙結果のお知らせ'.

今後、本会からの様々な情報や補装具費支給基準（制度）等の改正に向けたヒアリング等の調査を皆様のE-mailアドレスに送信しますので、『JAPOマイページ』にアクセスしてください。初回のアクセスでE-mailアドレスが登録されます。

お願い！ JAPOマイページへのE-Mailの登録！



これまで、PO協会の会報誌「JAPO通信」を電子版で不定期で発行してまいりました。このほど会報誌の紙面化に伴い、愛称を「PassiOn」にいたしました。会員の皆様に、PO協会の動向や有益情報を発信してまいります。

「PassiOn」は、“情熱”を表しますが、義肢装具士（Prosthetist & Orthotist）が患者様、対象者様に情熱をもって義肢・装具及び支援機器サービスを実践できるよう、本会が職能団体として社会貢献を果たしていくという熱意を表し命名いたしました。

今号の表紙は、第29回仙台大会のフォトコンテストの応募作品で、応募者の了承のもと採用いたしました。

皆様に愛される会報誌を目指したいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

会長 東江 由起夫
広報委員会

POアカデミージャーナル

12月号（31巻3号）特集企画：NU-FlexSIVソケットについて

今回の特集は「NU-Flex SIVソケットについて」をテーマとしています。

神戸医療福祉専門学校三田校の佐々木伸先生に総論としてNU-Flex SIVソケットの考え方と日本導入の経緯についてご執筆いただき、その後4名の経験豊富な先生方に臨床現場でどう応用されているかについてご執筆いただいております。NU-Flex SIVソケットおよびNU-Flex SISソケットについて、基本と応用がわかるような構成となっております。

NU-Flex SIVソケットは、現在のところ教科書には記載されていない大腿義足のソケットです。この特集が会員の皆様にとって新しい情報を得る機会になりましたら幸いです。

学術誌編集委員会

【巻頭言】 鎌田 恭子（理事）

【特集記事】

- | | |
|---|--|
| ◆NU-Flex SIVソケットの総論と日本導入の経緯
佐々木 伸 | ◆ NU-Flex SIVソケットの製作概念にピン式ライナー懸垂を選択した大腿義足の製作報告
昆 尚志 |
| ◆ 当社における坐骨下ソケットの変遷・効果とトラブルシューティングについて
林 伸彦 | 【症例報告】
◆ハンセン病後遺症患者とWhole Person Care
菅野 太洋 |
| ◆ NU-Flex SIV/SISソケットの不応例と調整方法に関して
中野 浩朗 | 【シリーズ】
◆eLabo(エラボ)インソール…3Dプリンターでつくるインソール…
奥野 雅大 |
| ◆当社におけるNu Flex(SIS)ソケット症例の報告
三浦 祐助 | ◆接着剤関係法規
青木 淳 |

調査協力をお願い

義肢装具士の多職種連携実践能力に関する調査

「義肢装具士の多職種連携協働実践能力に関する調査（オンライン・アンケート）」について東京大学大学院医学系研究科医学教育国際研究センター医学教育国際協力学部部門研究者の泉 有紀氏より依頼がありました。本会に費用が発生しないこと、研究成果が本会に還元されること、本会ならびに会員に有益と判断できることなどから会員の皆様をお願いすることにしました。皆様におかれましては、本調査研究にご協力をお願いいたします。詳細については、同封の「依頼文」をご確認ください。

常任理事会

研修セミナー

研修委員会では会員の皆様にセミナーを通じて有益な情報を提供できるよう、年7回の研修セミナー(支部セミナー+全国セミナー)を開催しております。義肢装具士に必要なテーマ・内容を各支部でピックアップし企画しております。研修セミナーの詳細は協会ホームページをご覧ください。



2023年度-2024年度 研修セミナーのご案内

	セミナータイトル	開催予定日
2023年度		
東日本支部	明日から使える！整形外科医による上肢疾患セミナー	2024年2月3日開催
中部日本支部	車いすの基本と姿勢保持	2024年2月3日開催
全国	義肢装具士に必要なICF（国際生活機能分類）の基礎知識	2024年3月3日開催
2024年度		
南日本支部	坐骨収納型ソケット実技セミナー ライナー編	2024年9月14日-16日
東北支部	義肢装具分野での3D技術について	2024年9月14日予定
北海道支部	最先端医療と義肢装具～再生医療におけるリハビリテーションと装具療法～	2024年10月 予定
西日本支部	アルミニウム合金のTIG溶接技術クリニック	2024年10月 予定
中部日本支部	走行用義足セミナー	2025年2月 予定
東日本支部	初めての車いす～初めの一步～（仮題）	未定
全国	補装具費の支給基準に関わる正しい知識（仮題）	2025年3月 予定

(研修委員会)

生涯学習 標準カリキュラム

さまざまな医療制度や多職種との連携の中で、自らの立ち位置を認識し、法律や倫理をふまえた業務ができ、課題・仮説を自ら設定し、情報を収集しながらその解決や検証に取り組める能力獲得を目的とした生涯学習プログラム「標準カリキュラム」を提供しております。

「新人プログラム」（資格取得後5年以内の方は無料）と新人プログラム修了者を対象とした「一般プログラム臨床基礎コース」および「一般プログラム研究基礎コース」（いずれも正会員受講料¥6,000）の3コースで構成され、いずれもオンデマンドによる動画講座が中心となっています。

各コースのコンテンツ内容など詳細につきましては、QRコードより協会HPを参照ください。皆さまのご参加をお待ちしています。



(生涯学習委員会)

補装具費支給基準改定のヒアリング

2023年7月26日に厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課自立支援振興室より補装具費支給基準の改定のために関係団体からの提案（書面ヒアリング：要望書の提出）を同年8月25日までに提出するよう通知が本会にありました。各団体で優先順位の高い課題を、最大2点とし、エビデンス・客観的データに基づいて記載するよう指示があり、提出の際にはこれらのデータや学術論文等を提出するよう求められました。

8月1日付でホームページにて、会員に要望を公募しました。その結果、会員15名から、延べ38件の要望が集まりました。この中から次の2点を満たす要望を採用することにしました。

- ①エビデンスの提示
- ②複数人から同一内容の要望

理事会で2点に絞り厚生労働省に提出しました。詳細についてはホームページでご確認ください。
(理事会)

補装具関連7団体協議会の発足

2023年7月27日(木)、厚生労働省による「団体ヒアリング等説明会」が開催されました。補装具費支給基準に関わる本会を含めた7団体

- ・（一社）日本義肢協会
- ・（一社）日本車椅子シーティング協会
- ・（一社）日本補聴器工業会
- ・（一社）日本補聴器販売店協会
- ・（一社）日本障害者コミュニケーション支援協会
- ・（一社）日本福祉用具・生活支援用具協会

が参加しました。共通の要望として物価高騰対策の要望があり、厚生労働省側から7団体が連携協力して解決できるのではないかとの意見を受け、「補装具関連7団体協議会」を設立することになりました。代表は（一社）日本義肢協会の時吉重雄理事長が担うことになりました。今後は年2回会議を開催し、共通の要望は連携協働して厚生労働省に要望書を提出することとなりました。詳細については協会ホームページをご覧ください。

(理事会)

厚生労働大臣への要望書の提出

2023年11月17日(金)、補装具関連7団体協議会は、各団体の共通の要望である物価高騰における補装具費支給基準の見直しの陳情書を武見敬三厚生労働大臣に提出しました。同協議会を代表して（一社）日本義肢協会の時吉重雄理事長が陳情書を読み上げました。



(常任理事会)

30周年記念式典ならびに祝賀会の開催

日本義肢装具士協会は、1993年5月23日に設立され、昨年30周年を迎えました。これを記念し、2024年7月13日(土) - 14(日)に開催される第30回日本義肢装具士協会学術大会（さいたま市浦和会館）にて、30周年記念式典ならびに祝賀会を開催する運びとなりました。詳細が決まりましたらホームページ等でお知らせします。

会員の皆様には是非ご参加ください。

(30周年記念事業WG)

第30回 日本義肢装具士協会 学術大会

The 30th Scientific Meeting of Japanese Academy of Prosthetists and Orthotists

会期 2024年7月13日・14日 会場 埼玉会館

大会長 保谷 純一 公益財団法人 鉄道弘済会
義肢装具サポートセンター

JR浦和駅(西口)下車 徒歩6分

実行委員長 本道 伸弘 学校法人 早稲田医療学園 人間総合科学大学
副実行委員長 後藤 直生 国立療養所 多磨全生園

業域の展開



演題募集を延長しました！ 〆切は2024年2月12日(火・祝)

※詳細については上記の学術大会ホームページにお入りいただき、演題登録をお願いします。

義肢装具士求人情報・求人広告募集

義肢装具士求人情報はホームページの【会員専用】トップページより求人情報をご覧ください。
企業様へ。求人広告をご検討されている方は、【義肢装具士の求人】よりお申込みください。

お願い JAPOマイページ E-Mailアドレスの登録

『JAPOマイページ』は本会が運営するサイトで、登録されている住所や連絡先などの個人情報の閲覧や更新が可能なシステムです。

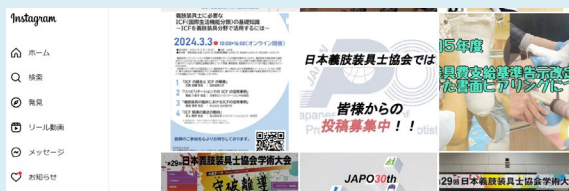
登録内容に変更がある場合は、「システム管理番号」及び「パスワード」でログインし、最新の情報に書き換えをお願いいたします。

PO協会からの様々な情報や補装具費支給基準(制度)等改正等に向けたヒアリング等の調査を皆様のE-mailアドレスに送信しますので、未だ登録されていない方は、是非『JAPOマイページ』にアドレスをご登録ください。



JAPO Instagram

『JAPO Instagram』は本会が運営する情報発信サイトです。会員の皆様から義肢装具士の仕事の素晴らしさを広く社会に発信しますので、投稿の情報の提供をお願いします。



会員数 (2023.11.30現在)

正会員：2,263名 賛助会員：35名
購読会員：58名 学生会員：725名

日本義肢装具士協会 会報誌 JAPO通信 第11号

発行日：2024年1月15日

発行元：公益社団法人 日本義肢装具士協会

発行責任者：東江 由起夫

編集スタッフ： 広報委員会

委員長： 峯松 亜由美

委員： 大塚 博

担当理事： 植松 茂也